



も り

写真：パイロットフォレストのカラマツ林
(標茶町、厚岸町)

北の森林 国有林

今月のトピック

- ・ 国有林材の安定供給について



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



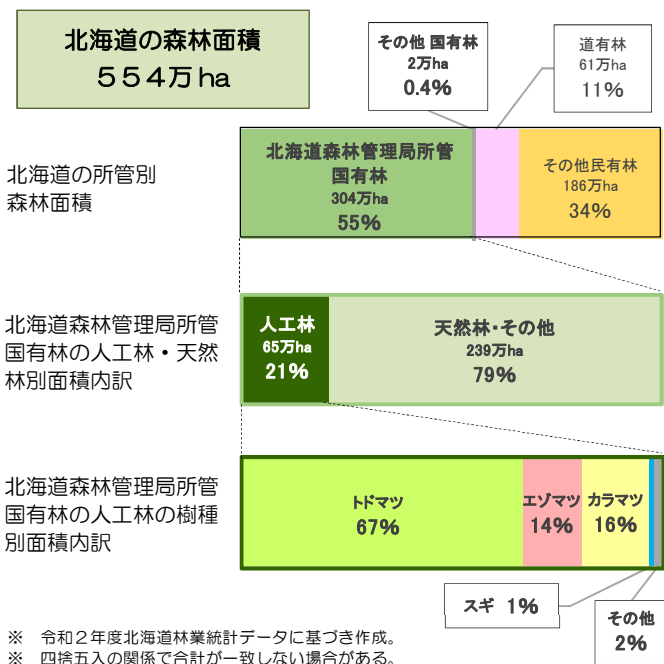
国有林材の安定供給について



資源活用第一課

資源活用第二課

北海道森林管理局所管国有林の状況



はじめに

北海道森林管理局所管の国有林は約304万ヘクタールで北海道の森林面積の約55パーセントを占めています。そのうち約65万ヘクタールがトドマツやカラマツなどの人工林で、多くが利用期を迎えています。北海道森林管理局では、公益重視の管理経営を一層推進しつつ、地域における

木材安定供給体制の構築等を図るため、森林の機能に応じた施業の結果、得られる木材の持続的かつ計画的な供給に努め、地域の林業・木材産業の活性化に貢献することとしています。

令和4年度は立木の販売量が約98万立方メートル、素材（丸太）の販売量が約81万立方メートルを計画し実行しているところです。

北海道産木材への期待と建築物への木材利用

令和3年6月に閣議決定された新たな森林・林業基本計画においては、森林を適正に管理・利用して2050年カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現を目指すこととしています。



また、ウッドショックによる影響や海外情勢等により依然として輸入木材の供給が不安定な状況が続いていることから、国産木材の供給及び利用について期待が高まっています。

そして令和3年10月に「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（通称：都市（まち）の木造化推進法）が施行され、建築物における木材利用をさらに促進するため、対象を公共建築物から建築物一般に拡大されました。

木材は森林が吸収した炭素を貯蔵しており、木材を利用することで地球温暖化防止、脱炭素社会の実現に寄与することから建築物の木造化・木質化等が促進されているところですが、

北海道内においても木造の非住宅・中高層建築物等が建築されてきており、このようにして建築物の木造化が進んでいくことにより

北海道産のトドマツやカラマツ等において建築材（構造材）への利用の増加が期待されているところです。（左写真・札幌市に建設された高層木造ハイブリッドホテル）

国有林材供給調整 検討委員会の開催

北海道森林管理局においては、国産材を政策的に供給し得る国有林の優位性を活かし、価格急変時の供給



国有林材供給調整検討委員会

調整機能を発揮する目的で、四半期毎に「国有林材供給調整検討委員会」を開催しています。

この委員会では、学識経験者や林業、木材業界の団体、事業者等の外部有識者等が構成メンバーとなり、地域の木材の価格や需給の動向を把握・分析し、国有林からの木材の供給量や供給時期の調整が必要なのかどうかの検討等を行っています。

本委員会は令和4年9月

21日に今年度2回目の委員会が開催されました。

国有林材の安定供給の 取組について

同委員会での検討結果を踏まえ、好調な素材販売を中心に、生産した素材は計画的に販売しつつ、地域の実情に応じて柔軟に対応し、引き続き安定的な木材供給に取り組むこととしています。

また、大ロット（1万5千立方メートル程度）の物件を供給し、安定供給び木材流通の合理化の推進や、建築材への利用目的として、大径材物件を供給する安定供給システム販売等にも取り組み、トドマツやカラマツのサプライチェーン構築の推進を図っています。

さらにストックヤード等の中間土場を整備することで年間を通じて原木の供給や搬出が円滑に行えるような取組も進めています。



木造階の客室

RC造階の客室

【ザ ロイヤルパーク キャンパス 札幌大通公園】

2021年10月に開業した国内初の高層木造ハイブリッドホテル。

11階建て、1～7階はRC造、8階はRC造と木造のハイブリッド構造、9～11階は純木造となっている。

高耐久の壁パネルを開発・採用し、床にトドマツCLTを使用、下層階天井部には、打ち込み型の「配筋付製材型枠」を採用し天井にトドマツパネルが現しになっている。

木材使用量は約1,200㎡（構造材のほか内外装材も含む）で、そのうち北海道産木材は約960㎡使用している。

（写真提供：三菱地所株式会社）



ストックヤード（積丹町）

地域課題の解決に向けた取組み

紋別海岸防風保安林の森林造成の取組み

網走西部森林管理署
西紋別支署

【地域の現状と問題点】

紋別海岸防風保安林はオホーツク海から吹く寒冷的な強風から農地を守るため、昭和33年～50年にかけて造成されました。

当該防風保安林は、現在海岸侵食が進み、林帯幅が80m→50m程度まで減少しており、林帯の海側では、侵食による林冠破壊と海岸線の接近による飛来塩分の増加等の影響により、急速に疎林化が進行しています。一方、陸側では密植造林地が過密化していることから、防風林を維持するため植栽・本数調整伐などの再整備が必要となっています。

【現在までの取組み】

●植栽試験（令和元年）

疎林化した林分回復のため、令和元年度に植栽試験を実施しました。

試験地には、通常植と密植の2区画に分け、アカエゾマツ裸苗を植栽しましたが、令和3年度調査結果では、両区画とも5割の枯損が確認されました。



令和3年度 植栽試験地

このことから、現地検討会や施工業者からの聞き取りを行い「苗木の活着不良」、「土壌（粘性土）による生育の悪さ」、「防風柵の施工性」などの課題が露呈したことから、当該箇所については令和4年度以降に補植を実施し、さらに経過を観察する予定です。

●植栽試験（令和3年）

令和元年度植栽試験で確認された課題を受け、令和3年度に新たな植栽試験を実施しました。

苗木は裸苗に比べ活着がよいとされるアカエゾマツコンテナ苗を選択し、密植で植栽しました。

防風柵は「杭丸太のみ」と「木製板+杭丸太」の2種類を設置しました。施工方法は、床堀箇所柵を設置する工法で、購入土で埋めた前回に比べ、残土が発生せず埋戻しも不要となりました。

試験地内は2区画に分けており、「植栽用客土」、「現地土+砂質礫の混合材」を敷設しています。

令和4年度はミスナラ、カシワの植栽を予定しており、より現地の環境に適した樹種の調査を行います。

●本数調整伐試験

過密化林分2小班に対し令和元年度に本数調整伐を実施しました。

伐採したことで、樹冠がうっ閉した林分の日照を回復させるとともに、残存木の成長スペースを確保し、森林の公益的機能を高度に発揮出来る林分へと変化することを期待しています。

当該箇所は、密植造林地のため、伐採の際に、かかり木が発生しやすく、現地発生材の林外への搬出が難

しいことから、今後は「林外への搬出を可能にするため伐採方法を列状で行う」、「現地発生材の有効利用」等、作業する中で検討・検証することが重要と考えています。



本数調整伐実施箇所

【今後に向けて】

海岸防風林の整備は、防風・防潮の機能維持に加え景観の向上という効果も付随するため、地域振興の観点からも重要です。

今後も内陸部の公園や国道、紋別空港などの保全対象を守り地域振興への一助とするため、森林の再生に取り組みでいきます。

こんにちは 森林官です!

上川中部森林管理署
美瑛森林事務所
首席森林官 織田 英明



森林事務所庁舎

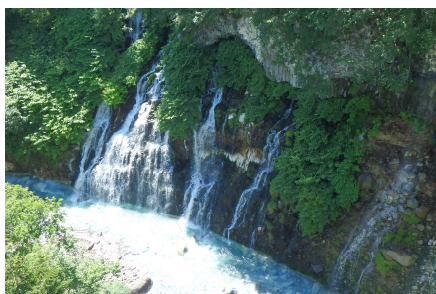


【地域の紹介】

美瑛森林事務所は、北海道の中心部、上川総合振興局管内の美瑛町に所在しています。美瑛町のなだらかな波状丘陵地帯では畑作が中心に営まれ、作物の違いによりパッチワークのような景観に魅せられます。

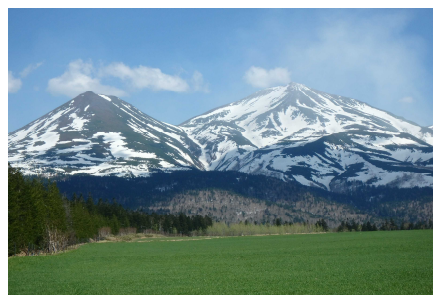
また、大雪山国立公園の十勝岳連峰の大部分が町内に所在し、荘厳な景観も楽しめられます。その他にも見所がたくさんあることから、夏季を中心に多くの観光客の皆さんが訪れる観光地です。

小麦、甜菜、豆類、馬鈴薯などの畑作農業を基幹産業としながらも、近年は「日



白金地区にある白鬚の滝

本で最も美しい村」連合の取り組みをはじめとした、美しい景観を次の世代に伝える取り組みも行っています。



美瑛富士と美瑛岳

【美瑛森林事務所の概要】

美瑛森林事務所は、美瑛担当区、朗根内担当区の二つの担当区を担っており、美瑛町の東側及び南西部に位置し、合わせて約2万haの国有林を管轄しています。なお、美瑛町内の国有林については、西神楽森林事務所が担当する志比内担当区分を合わせると3万haを超える広大な面積となります。

首席森林官と地域技術官それぞれ1名の計2名の職員で各種業務を行なっています。

【これからの林業】

12年ぶりの森林事務所勤務となりますが、基本的な業務内容は以前と変わっていません。しかし、電子機器を使用する若しくは使用しなくてはならない作業が格段に増えております。

ICT化が今後益々進んでいくことになるかと思いますが、この度、林業成長産業化構想技術者育成研修を受講することとなりました。

これは、ICT（情報通信技術）等を活用し10年、20年先の森林管理も視野に入れた路網整備等を含む地域特性に応じた森林資源利用の構想を作成するための知識や技術を身につけた技術者の育成を目的として行われているものであり、受講者の対象は、国有林職員に限らず、自治体職員や森林組合、民間企業の職員まで幅広くなっています。

「きつい・汚い・危険」の通称3Kのイメージである日本の林業が、ICT活用により大きく変わる転機を迎えようとしております。

具体的にICTで何ができるのか等は、この紙面上ではお伝えできるボリュームではありませんので、ご興味のある方は、是非検索いただければと思います。

【最後に】

当事務所に赴任してまだ半年も経っていませんが、各種事業が次々に行われており、目の前の業務の処理に追われております。

今はまだ地域の林業の実情も把握できていない状態ではありますが、地域にも貢献できる期待される国有林となれるよう、研修をしっかり受講し、地域に活かせるように研鑽を積んで参りたいと思います。



遡上してきたサクラマス

も い 森 林 の 話

第 22 話

檜山森林管理署

道場 直樹

若手職員のコーナーです。

私は檜山森林管理署乙部森林事務所勤務しており、森林と関わるこの職場だからこそできる経験をさせてもらっています。自然とのふれあいは気持ち良さを感じることもあれば、自然の中だからこそその困難を感じることもあります。

今回は職場で開催したイベント内容や、森林で業務を行ううえで気を付けていることについて触れたいと思います。

【グリーンスクール】

檜山森林管理署では毎年、近隣の小学校が砂坂海岸林にて開催する森林環境教育「グリーンスクール」をサポートしており、小学生に森林の楽しさや魅力を伝えています。

今年9月8日に開催され、私は低学年と「色いろ探検隊」という、指定した色のものを自然の中から集めてくるゲームを担当しました。これは自然観察力を高め、森林に興味を持ってもらうことを目的としています。

子どもたちは想定よりも

多くの自然物を見つけていて、細かい観察力に驚きました。始める前は子どもたちが自然に対し、どのくらい真剣になってくれるか不安でしたが、みんなの反応が良かったため安心しました。



環境教育の様子

むしろ定められた時間間に合うようにするのが大変で、自然物を多く探したい気持ちを尊重しながらもゴールまで誘導するのが難しいところでした。普段から森林で業務しているとはいえ、私はこのゲームの準備を進める前は森林にどのような色があるかを探して歩くことはなかったため、下見を重ね当日一緒に参加することで私自身も自然の

魅力を改めて感じる事が出来ました。

また、子どもたちは元気があり活発でしたが、蚊に刺された子や蛾を嫌がる子、歩き疲れた子もいました。そのような体験ももらったうえで森林に魅力を感じ、森林を意識するきっかけになってくれれば一職員としてとても嬉しく思います。



集めた自然物を確認

【森林内での車の運転】

業務では基本的に車を運転して森林に向かいます。赴任してきた当初は助手席に座り注意点を把握することに徹していましたが、いざ自分で運転するようになると想像よりも神経を使う

ことがわかりました。目的地に到着するまでの林道では場所によって状況が様々であるため、どのように車両を動かせばよいか困惑することもあり、その際は上司に動かし方を見せてもらいました。

現在は当初よりも冷静な運転が出来るようになりましたが、それでもヒヤリとすることは多いです。例えば雨風の影響で思わぬ所に落石があったり、ぬかるみによりハンドルを取られてしまうこともあります。自身の油断が危険に繋がるため、常に気を張るよう心がけています。

また林道ではシカやキツネなどの動物が飛び出してくることもあり、何度も通っている道で慣れていても危険を感じることは多いです。これは広い道でも下り坂でも同じでスピードを抑えることで対処しています。近年では森林でのレジャーがメディアで取り上げられることも多くなりましたが、皆さんも気を付けて森林や自然を楽しんで頂きたいです。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

日高小学校で森林教室を実施しました



【日高北部森林管理署】

令和4年9月16日(金)、日高小学校5年生6名を対象に、「総合的な学習時間」の一環として森林教室を実施しました。はじめに日高小学校内で森林や林業について、図面や写真などで説明したあと、国有林内で間伐等の作業をしている現場に行きました。作業現場では職員が林業機械について説明を行いながら、木を伐採・玉切りしているのを間近で見ることができ、「わー、すごい」と歓声があがっていました。

その後、実際に乗車し、作業員の方にどのように動かすかロープに触れながら一人ずつ操作方法を教わりました。順番を待っているあいだ児童たちはドローンを見学したり、木を運ぶフォワーダに乗せてもらい森林作業道を走行したり、スウェーデントーチ(たき火をする丸太)作りで丸太の断面に十字に切り込みを入れる作業をしました。森林に囲まれた日高ならではの内容盛り沢山の森林教室になりました。

長沼高等学校にて地域学習出前授業を行いました



【北海道森林管理局】【空知森林管理署】

令和4年9月26日(月)、北海道長沼高等学校の2、3年生77人を対象に出前授業を開催しました。長沼高等学校は、10月21日(金)に地元の国有林防風保安林内で植樹作業を予定しており、今回はその事前学習としての授業です。

当日は職員で林業漫画家でもある平田係長が、「林業漫画家からのメッセージ」と題し、日本の森林・林業全般についての講義を行ったのち、空知森林管理署が整備を進める「凸型防風保安林」の重要性や役割についての説明を行いました。授業の後半では、事前「北の森漫画」を読んだ生徒からの質問に答える時間も設け、「山の中で熊に遭遇したことは?」や「木とコンクリートの違いは?」といったものから、「なぜ漫画を描こうと思ったのか?」といったものまで、幅広い質問が寄せられました。

国有林の職員が現場で使用する、スパイク長靴や輪尺、熊スプレー等の実物も展示され、生徒の皆さんは実際に手に取り記念撮影をしたりして、森林・林業に対する興味を深めていました。

北の森づくり学院生へ講義及び現地実習の開催



【上川中部森林管理署】【北空知支署】

令和4年9月20~21日の2日間、上川中部森林管理署及び北空知支署の国有林において、北海道立北の森づくり専門学院(北森カレッジ)2年生36人に「一貫作業システム」について、講義及び現地実習を開催しました。

初日に、北森カレッジにて森林の現況、伐採・再造林、一括発注することによるコストの縮減、大型地拵、コンテナ苗の活用、下刈の省略・省力化、機械下刈、軽労化、各種試みなどについて講義を実施しました。その後、上川町の国有林において、大雪林業株式会社の協力のもと、フォワーダでの集材や高性能林業機械フェラーバンチャザウルスロボでの地拵を見学しました。また、昨年北森カレッジを卒業し大雪林業株式会社に就職した先輩からの体験談もあり、生徒たちは興味津々に聞いていました。

21日は、北空知支署国有林にて、担当から林況や、保残木設定に伴う天然更新補助施業の内容などについて説明を受け、その後チェンソー伐倒とフェラーバンチャザウルスロボによる伐倒を見学しました。

えりも高校生の枝落とし体験



【日高南部森林管理署】

令和4年9月14日(水)、北海道えりも高等学校1年生23名が、えりも国有林内においてクロマツ植栽地の枝落とし体験を行いました。

この取組は、えりも地区連携型中高一貫教育「環境教育 百人浜に学ぶ」として、中学校では植樹、高校では枝落としをしてもらい、森づくりへの貢献と身近にある自然環境のことを考えるきっかけ作りとして行っているものです。

まず、開講式で枝落としの必要性についての話を聞いたあと、中学生時代に自分達が植樹した箇所の様子を観察しに行きました。

その後、枝落としを行う場所へ移動し、枝落としの方法や注意点について説明を聞いたあと、各班の持場に分かれて作業を開始しました。最初はノコギリの使い方もぎこちない様子ですが、次第に慣れてくると作業スピードも上がり楽しくなってきたのか夢中になって時間ギリギリまで枝落としをしている生徒もいました。

木材利用促進月間

「ウッドチェンジ! スペシャル対談」配信予告

毎年10月は「木づかい促進月間」です。(10月8日は「十と八」で「木」の日)。「木づかい運動」の促進にかかるイベントの開催など、全国で様々な取組が展開されます。

三島千枝(チエモク(株)代表取締役)と平田美紗子(林野庁林業漫画家)のスペシャル対談を maff channel にて配信予定です。



やってみよう、木づかい。
身近なものを木に変える、
ウッド・チェンジ!

ウッド・チェンジ!
スペシャル対談

こんなことでもウッド・チェンジ
・木に変えて、変わったのは暮らしとワタシ
・ハンノキのこと

木ヤピ
木ヤピ
トーク!

森の資源の循環活用
伐る
使う
植える
育てる

三島千枝
チエモク(株)代表取締役

平田美紗子
林野庁 林業漫画家

司会: 穂積玲子
林野庁 北海道森林管理局
技術普及課長補佐

HOKKAIDO WOOD
WOOD CHANGE
WOOD & CHANGE
木づかいニッポン

もり
広報 「北の森林 国有林」 10月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

📌 今月の木 「シナノキ」 📌
今月は「シナノキ」のイラストを表紙の
月数字のうしろに掲載しました。
アイヌ語で「シナシナ」は「結ぶ」の意味。
皮を布や縄の材料にしたようです。

詳しくは、ホームページの
「北海道の木のえほん」
をご覧ください。



今月の表紙